ひろば

映画のなかの図書館—中国篇

1985年9月のプラザ合意で始まった円高は，株高・土地高のバブル景気の原因のひとつとして功罪には議論のあるところですが，こと海外旅行に関してはたいへん行きやすくなって，たくさんの人が海外に出かけました。しかしモロモロの都合で行かなかった人も多い筈(行ってない私は勝手にそう信じてます)。

そこで私同様行ってない人向けに，外国映画で手軽な海外旅行を。近いところで中国に関する映画から図書館の出てくるものをいくつか。

広東省深圳の若い女性図書館員が主人公の「太陽雨」('87)。ヒロインの恋愛模様をえがいた風俗映画ですが，図書館は真新しくて大変きれい。

メイベル・チャン監督の「誰かがあなたを愛してる」('87)。アメリカが舞台の香港映画で，主人公の男女はニューヨーク公共図書館の前の路上で人形を売ってます。

謝晋監督の「戦場に捧げる花」('84)は1979年の中越戦争がテーマ。あたらしく部隊に配属された政治指導員は党の幹部の息子。戦争が始まる前に安全な地域に転出できるか心配して，部隊の図書館の新聞でベトナムとの政治情勢を読みます。

「戦争を遠く離れて」('87)の年とった父親は日中戦争のときの兵士。息子は北京の軍人で，つとめ先の軍の図書館がすこし出てます。

愛親覚羅溥儀の後半生をえがいた「火龍」('87)は香港・中国合作。溥儀が自伝を口述する場所は図書館のようです。ラスト近くはまちがいなく図書館。書架にならんだ中国史の本が印象的。

第二次世界大戦中につくられたフランク・キャプラ監督のアメリカ映画“The Battle of China”('44)は日本非難のプロパガンダ映画。西欧文明を日本は悪用し，中国は善用したというところで，中国の図書館が出てます。

鄭君里監督の「われら夫婦の間」('51)の主人公夫婦の上海での仕事は資料室の開室準備。「錦上添花」('62)では駅の待合室で旅客のうたう歌のなかに図書館が出てます……。

……しかし海外には実際に行くほうがやはりいいですよね(図書館にかぎらず)……。円はまだけっこう高い値を維持しそうだけど(本当かね??)，さて……。 (滝沢)

東京大学附属図書館月報“図書館の窓” Vol. 31 No. 6 (通巻345号) 1992年6月1日発行
発行人 淺野次郎 編集委員会 委員長・佐藤佳年子 委員・内島秀樹・粕谷智子・宝来貴子・松下彰良
東京大学附属図書館発行 〒113 東京都文京区本郷7－3－1 電話 03(3812)2111 (内線)2612